

熊野学センター

基本構想

熊野学センター建設検討委員会

熊野学センター基本構想

目次

1 . 熊野学センターへのアプローチ	1
2 . 熊野学センターの位置づけ	2
3 . 基本理念	3
4 . 方向性	4
5 . 施設機能	5
6 . 管理運営	6
7 . 施設規模と建設予定地	6
8 . 参考資料	7
9 . 取り組み経過	1 2
1 0 . 熊野学センター建設検討委員会名簿	1 3

1 熊野学センターへのアプローチ

紀伊半島の南に位置する熊野は、現在のほぼ東西南北牟婁郡（和歌山県・三重県）にあたる広大な地域の総称です。平野こそ存在しませんが、その変化に富んだ自然環境は、海、山、川の多彩で多様な生き物たちの宝庫となり、私たちの祖先もこの豊かな自然のなかで生活し、特有な感性と信仰とを育んできたと言えます。そこから、やがて熊野信仰が花開いてきました。多くの人々が熊野をめざして訪れ、人々の往還が熊野信仰を各地に伝えました。こういった環流こそ熊野を停滞させることなく、独特な文化を生み出しました。

熊野が世界遺産に登録されて5年目を迎えました。わが国ではじめて、人間と自然との共同作品としての「文化的景観」という概念で位置づけられたものです。時間的、空間的に堆積されてきた熊野の精神世界や宗教文化が、新たに注目されるようになりました。

このような状況を踏まえ、いま熊野学を立ち上げ、熊野が育んできた自然と歴史、文化などを学問的、科学的に考察し、未来に向けてその独自性、普遍性を発信していく時期に至っています。

もとより、熊野学は地域に根ざした研究を基礎とするものですが、同時に、熊野へ伝播してきたもの、熊野信仰のように明らかに熊野から伝播したものを含めて、広く開かれたものでなければなりません。

熊野学は、従来の人文・社会・自然科学などの学問分野を、学際的、総合的に乗り越え、さまざまな分野で顕現化している「近代文明の在り方そのもの」への問いかけを含むことをも予感させます。「熊野は問いを抱いたものの似姿」とは、作家中上健次のことばですが、熊野学は現在を生きるわたくしたちの問いかけにも十分に応えるものでなければなりません。

2 熊野学センターの位置づけ

新宮市は、長年にわたって、文化をまちづくりの基軸としてきました。平成 19（2007）年度に策定した新しい総合計画においても、めざす都市像を『人輝き文化奏でる都市』と掲げ、深遠な自然と文化を愛護し、それらを地域の魅力・まちの輝きとして際立たせることを目標としています。政策目標にも「熊野文化の高揚と演出」が明確に位置づけられました。

また、特進事業として「市街地再生・学校再編プロジェクト」を定め、熊野学センター、図書館、文化ホール（市民会館）の一体的な整備による、“文化のまち新宮”の新しい顔の創出をめざすこととしています。

日本に名高い熊野文化を基調にしたまちづくりは、観光面における交流人口を増やし、Ｉターンなどの定住を促すと同時に、地域住民の誇りと地域経済の活力にもつながります。そのためにも、「独自性」と「共感性」の視点を欠かすことができず、熊野にしかないもの、あるいは「やはり熊野だ」と思わせる独自性が必要で、また、一部の研究者だけに留まらず、市民をはじめ、より多くの人々が共感できるものでなくてはなりません。

さらには、自然と人間との共生を思想として持つ本地域からの声明として、生産性を重視してきた近代文明への警笛や、自然との調和のあり方、環境配慮型社会の構築に向けた生活スタイルの見直しまでを問いかける役割が期待されます。

今こそ、行政目標、市民活動、実績（事業、人材輩出含む）、関連資料（史）料架蔵、人的ネットワークなど、熊野文化のあらゆる面で地域を牽引してきた新宮市から、熊野文化の多様性を踏まえ、底知れぬ魅力と理念を、熊野学として体系化し、学術的な見地から研究を深めるとともに、それらを、研究者や観光客、地域住民らに広く発信する時にきています。

3 基本理念

「熊野文化の学術的な深化と発信」

熊野は、魅惑的で未解決の研究テーマが無尽蔵にある宝庫です。ここには、日本の基層文化が底流しており、今なお、多くの人々の心を惹きつけています。

熊野学センターは、熊野に顕在する個性を光らせ、潜在する魅力を引き出す拠点施設として、人文・社会・自然科学などの学問分野から、学際的・総合的に研究を深め体系化し、地域の独自性と普遍性を解明していきます。

また、その成果を余すところ無く情報発信し、関係者・機関との連携を図りながら、熊野地域の活性化と熊野文化の全国展開を進めることを目的とします。

4つの目標

資料収集、ネットワーク化など、「日本一の熊野学研究施設」をめざします

多岐にわたる研究分野を包括・体系化させて、「熊野学の集大成」をはかります

「地域のアイデンティティ」として、地域住民の誇りと当地に暮らす価値を醸成します

「熊野地域のふりだし」として、来熊者が最初に訪れずにはいられない玄関口の役割を担います

4 方向性

熊野学センターのあり方「4つのミッション/使命」として、次のテーマを持ちます。

1. 地域の財産・資料を収集、調査研究し保存する

さまざまな日本文化の伝統に広がることになった資(史)料群(歴史的文書なども)の市外流失、散逸、あるいは滅失を防ぎ、良好な保存環境を整備し、それらの安定的に保管できる機能を充実し、熊野の伝統文化を地域遺産として後世に伝えます。

2. 全国唯一の熊野学の希求と推進、発信する独自の機関・施設とする

熊野地域の中心地として県域(田辺)、他県域(三重・奈良)を繋ぎ、既存の関連施設の上位概念を持つ「懐の深い機関・施設」として、他の関連施設と連携します。

また、人文、社会、自然科学などの学問分野・領域を越え、学際的・総合的に研究を体系化する事業を行い、また、これらを多様な方法で全国、世界へと発信します。

3. 地域住民の生活に潤いを与え、精神的にも誇りと自信をもてるような機関・施設とする

熊野文化が持つ独自性と普遍性を解明し、講演会や企画展などを通して、地域住民が自分たちの持つ文化や歴史を考えるきっかけとします。

さらに、この地に生きる住民としての誇りと自信に繋がることに資するとともに、将来を担う子どもたちにも伝えられるようなものとします。

4. 地域経済(産業・観光)の振興に寄与する

熊野学センターは熊野地域の表玄関として、熊野速玉大社と熊野古道・高野坂へのアプローチ拠点として、また観光的施設として整備し、市街地の空洞化を解消し、地場産業との協働、連携により地域経済を活性化するツールとします。

また、熊野の真髄を学び体感させることにより、ほんまもん熊野ファンの拡大を促進し、交流、定住人口や熊野応援人口の増大を図るものとします。

熊野学センターでは、これら4つの使命を基本に、「熊野信仰」を大きな柱として、自然、歴史、文学などとの関連付けを行いながら、熊野文化そのものともいえる熊野学に関する取り組みを進めます。

また、熊野信仰と関わりの薄いテーマであっても、企画展などを通じて、弾力的に取り組んでいきます。

5 施設機能

施設整備は、博物館的施設づくりを基本とします。また、複合施設化を予定する図書館、文化ホールとともに、熊野の中心地にふさわしい都市機能としての役割を持たせながら、「熊野文化の高揚と演出」のコア施設として、地域の活性化に寄与するものとしします。

熊野学センターの8つの機能	収 集	博物館的施設を目指す中、その根幹をなす資料を収集します。特に、郷土資料の充実を図るとともに、熊野関係論文などについても、図書館と共同で収集します。
	調 査 研 究	熊野学の各分野の調査研究を深めます。その成果は、展示や各種熊野学講座などに活用します。
	保 存	保存施設を整備し、熊野関連資（史）料を後世に引き継ぎます。収蔵施設は、国宝・重要文化財レベルの取り扱いも視野に入れます。
	情 報 発 信	ホームページや情報誌を通じて、全国、世界に熊野文化の魅力を発信します。
	展 示	展示空間を整備し、多彩で多様な熊野の魅力を表現します。断片的ではなく複層的に自然・歴史・文化を組み合わせ、他の施設が及ぶことのない随一の展示を、企画展やコーナー展を交えながら行います。
	学 習	地域住民のための各種講座を開催し、学校教育や生涯学習に生かします。また、観光客や大学生のためのセミナー等も多彩に開催し、フィールドでの実地学習についても、計画的に実施します。
	案 内	熊野を訪れる人のために、ナビゲーターの役割を担います。ビジターセンター機能を付加し、「ここに来たら、熊野が分かる」という施設をめざします。
	交 流	関連博物館や熊野研究者とのネットワーク化を図り、その拠点施設として機能させます。

6 管理運営

熊野学センターは、一体的に整備される図書館及び文化ホールと密接に連携して、効率的に管理運営するとともに、市民や利用者との協働による事業展開を含め、長期的展望に立ち、以下の指針に基づいた運営をするものとします。

6つの指針

- 1．国宝・重要文化財の取り扱いも視野に入れる中、施設規模（保存機能含む）の設置基準を踏まえながら運営します。
- 2．入館料については、有料の方向で検討します。
- 3．センター支援ボランティア制度等により、地域住民らとのパートナーシップによる管理運営に努めます。
- 4．客員研究員制度等を導入し、専門家らの研究成果を管理運営に生かします。
- 5．国際熊野学会等の既存熊野学研究団体と協力し、広がりのある運営を進めます。
- 6．理念の実現と経営効率のバランスを保つために、運営形態（直営・指定管理等）について検討を重ねます。

7 施設規模と建設予定地

- (1) 熊野学センターの施設は、国宝・重要文化財クラスにも対応できる収蔵庫等の整備を含め、公立博物館の設置基準に基づく規模が望ましいが、設置者となる新宮市の財政状況を踏まえながら、今後とも検討します。
- (2) 研修室、図書室、事務室など、文化ホールや図書館と共有できる施設及び人員等は、今後の施設計画を進める上で調整を図ります。
- (3) 熊野学センターを含む文化複合施設の建設予定地は、市民会館と丹鶴小学校跡地とします。新宮市総合計画では、安全で快適な教育環境の実現のため、学校再編を進めること、また、その跡地利用にあたっては、地域の特性を生かした公共施設の再整備を行うこと、特に、市民会館と丹鶴小学校跡地は、文化交流ゾーンとして市街地の再生を目指す方向が示されています。世界遺産「熊野速玉大社」、国指定史跡「新宮城跡」、国天然記念物「浮島の森」、佐藤春夫記念館・西村記念館、商店街など市街地に点在する地域資源を結ぶルート上にあり、熊野文化の拠点にふさわしい立地条件を備えています。

8 参考資料

1. 熊野の魅力（概要）

1. 豊かな自然

黒潮が流れ、温暖。

山はさほど高くないが、急峻な山が重なり、平地は少ない。

川は急流。滝が多く、山が海に迫っている。リアス式海岸が多く変化に富む。

日本有数の雨量を誇る大台ヶ原山系。

熊野川は日本屈指の流量を誇る。

変化に富んだ自然環境は多彩で多様な生き物の宝庫

2. 文化育む熊野の歴史の流れ

奈良時代・・・山岳修行の場としての熊野が注目

平安時代・・・熊野詣の隆盛と熊野御幸

鎌倉時代・・・熊野別当の勢力

源平合戦を左右した熊野水軍

御師と先達による参詣組織確立

南北朝時代・・・三山の僧徒の武士化<熊野八庄司>

室町時代・・・神宝の奉納と将軍家の女性の参詣の増加

戦国時代・・・西国巡礼など庶民の熊野詣の隆盛

安土桃山時代・・・堀内氏の奥熊野での勢力拡大

江戸時代・・・浅野氏の入国と新宮城の築城

北山一揆の勃発

水野家の250年にわたる新宮領の支配

熊野材・木炭・漁業（捕鯨・カツオ）

江戸との交易による江戸文化の流入

幕末の三山貸付業・富くじ

明治時代・・・廃仏毀釈、廃藩置県、南方熊楠の運動、大逆事件

3. 宗教文化

日本第一大霊験所の熊野 日本最古級の熊野速玉大社の神像群（国宝）

熊野三山連携による熊野信仰確立 有名な熊野修験者

山岳修行者の道場としての熊野の確立 日本一の渡海聖地<補陀落渡海>

日本一的那智大滝 西国三十三観音霊場一番札所的那智山

日本一の古道「熊野参詣道」 全国三千社の熊野神社

日本三大経塚遺跡の熊野三山経塚 日本第一の熊野牛玉宝印

日本文化史上特筆される熊野懐紙 地域史研究の重要史料の旦那売券

日本美術工芸史上優品の古神宝類 日本一有名な庶民布教絵画の熊野の絵

4 . 説話・伝承

国生み神話の「花の窟」 神武東征神話「神倉山」 徐福伝承 補陀落信仰
三本足の八咫鳥 修行者の霊験話（道成寺物語等） 熊野神の飛来縁起
一遍上人の悟り 和泉式部の月の障り 小栗判官の説話 熊野比丘尼の絵解き
熊野牛玉宝印とナギの葉 熊野那智曼荼羅の霊験構図

5 . 文化人と民俗文化

平家の武将・平忠度 熊野別当一族の歌人・行遍 江戸千家の茶人・川上不白
丹鶴叢書編纂の水野忠央 作詞家の東くめ 建築・芸術家の西村伊作
文化勲章の作家・佐藤春夫 モダンアートの先駆者・村井正誠
芥川賞作家の中上健次 神倉神社の火祭り 本宮の湯登神事と御田祭り
那智の火祭り 熊野速玉祭り 花の窟の御綱掛け神事 那智の田楽
能「道成寺物」 説教節「小栗」 熊野詣に伴う芸能の伝播

6 . 熊野の現代的意義

- ・表と裏、陰と陽、生と死の二面性の熊野
 - ・実践宗教、自然宗教としての熊野修験の復興
 - ・「日本が動く時、熊野が動く」、「熊野が動く時、日本が動く」といわれるように、先取りの気質の熊野
 - ・「全国区」としての広がりを持つ熊野
- 「熊野学」を構築して、学際的・総合的に日本全国へ、世界へ発信

2 . 熊野学の概観展示の主要テーマ

[自然] - 豊かな自然

熊野の気象 熊野の地質構造 熊野の植生分布 熊野の動物
熊野の天然記念物 熊野の希少動植物

[先史] - 熊野のあけぼの

熊野の縄文遺跡 熊野の弥生遺跡 熊野の古墳遺跡

[古代] - 熊野国から紀伊国牟婁郡へ

熊野の名義と範囲 紀伊国牟婁郡に編入 律令制下の支配と献上
古代熊野の氏族

[古代] - 熊野神の出現

記・紀神話の世界と熊野 自然崇拜と熊野神 熊野神の初見史料
熊野神の神階昇進 熊野三所権現

[古代] - 熊野は修行道場

日本霊異記の説話 那智大滝修行 大峯山修行の門戸 補陀落渡海の実践

- [古代] - 熊野詣の隆盛
皇族・貴族の熊野詣 熊野三山の組織 熊野荘園の寄進 熊野神社の分祀
- [古代] - 熊野詣の信仰と儀礼
熊野参詣道と王子社 熊野参詣の儀礼 経塚の造営 熊野曼荼羅の崇拜
- [中世] - 源平合戦と熊野
熊野における平氏と源氏 源平合戦の展開と熊野勢力 壇ノ浦合戦と熊野の水軍
- [中世] - 鎌倉幕府と熊野
後白河法皇と源頼朝 幕府の熊野支配と熊野別当 北条政子の熊野詣
熊野荘園と造営料国 後鳥羽上皇と承久の乱
- [中世] - 熊野の霊場化と広がり
師檀組織の確立 願文と旦那売券にみる信仰の広がり 一遍上人の熊野開悟
熊野牛玉と起請文
- [中世] - 南北朝の動乱と熊野
南北両朝からの荘園寄進 南北朝の戦いと熊野水軍 関所の乱設
熊野武士団の活動
- [中世] - 室町時代から戦国の世へ
室町幕府の熊野信仰 後南朝と熊野 畠山の内訌と熊野 西国巡礼のにぎわい
熊野比丘尼の布教
- [近世] - 豊臣政権と熊野
豊臣秀吉の紀伊平定と堀内氏 天正検地一揆と熊野の材木 朝鮮出兵と軍役
関ヶ原の合戦と熊野衆
- [近世] - 浅野氏の支配と社会
豊臣秀頼の三山修造 慶長検地と熊野 紀州浅野氏の領国支配
大阪の陣と熊野の動向
- [近世] - 紀州徳川家の入国と政治
紀州徳川家の政治支配 熊野の村の支配と組織 熊野の林政と水軍
巡見使の通行
- [近世] - 近世の熊野詣
修験道本山派・当山派門跡の入峰 遊行上人の巡歴 西国巡礼と「関東ベエ」
文人墨客の熊野詣
- [近世] - 経済統制と庶民の暮らし
御仕入方の設立と熊野 木材・炭の生産と流通 地業産業の進展
庶民の暮らしと災害・飢饉

[近世] - 幕末・維新の政変と熊野

水野忠央の政治と文化 幕末の村替え騒動と一揆 天誅組と熊野
幕長戦争とその後の熊野

[近代] - 明治初年の熊野

和歌山県の成立と大小区制 学制の改革と地租改正 産業の動向と改組
神仏分離と熊野 町村制と郡制

[近代] - 戦争・災害・事件

日清・日露戦争と熊野の暮らし 明治22年の大水害 大逆事件と熊野
南方熊楠と自然保護運動

[近代] - 大正期の政治と社会

政党の進出と政争 第1次世界大戦と経済動向 近代化の進展と社会運動

[近代] - 昭和期の発展と交通発達

山村の疲弊と政治 交通網の発達 国立公園の指定と観光振興
戦時体制化の暮らし

[現代] - 民主化と産業開発

戦後の改革 産業と交通の発達 社会運動と教育文化の振興
吉野熊野総合開発の展開 市町村合併と新しい熊野のくにづくり

[現代] - 熊野の・・・(仮称)

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の登録
平成の市町村合併
過疎化の進行・・・

3 . コーナー展・企画展の一例

<熊野の文芸・芸能世界>

[和歌] - 熊野賛歌の世界

古代からの歌枕と和歌文学 熊野詣の熊野懐紙 今様と宴曲集

[説話文学] - 熊野参詣の伝説

道成寺縁起の展開 和泉式部の参詣伝説 小栗判官照手姫物語

[芸能文化] - 平曲から絵解きへ

琵琶法師の『平家物語』 説教節・浄瑠璃・歌舞伎の小栗物
歌舞伎で発展した道成寺物 熊野比丘尼の絵解き

<熊野の人々のくらしぶり>

[山の民俗] - 山の生活と知恵

山の民の衣・食・住 木を育て、切り、運ぶ 山に生きる知恵 山の神信仰

[川の民俗] - 川の利用と恵み

川の民の衣・食・住 川を使い運ぶ 川の恵みをいただく 川への信仰

[海の民俗] - 海をめぐらに

海の民の衣・食・住 海を行き交う 海の幸をえる 海の神信仰

4 . 主に扱う分野

人 文 科 学	哲学、宗教学、言語学、文学、芸術学、歴史学、考古学、地理学 人類学、民俗学、心理学
社 会 科 学	法学、政治学、行政学、経営学、社会学
自 然 科 学	理学<生物学(植物学・動物学)・地学・天文学>
そ の 他	環境学など学際領域の分野

9 取り組み経過

日	内容
平成 20 年 2 月 7 日	第 1 回委員会 【新宮市役所】 建設候補地視察・意見交換ほか
平成 20 年 3 月 19 日	第 2 回委員会 【新宮市保健センター】 基本理念の検討、熊野学センターの課題の整理ほか 「和歌山県世界遺産センター」視察
平成 20 年 4 月 17～18 日	第 3 回委員会 【富山県立山国際ホテル】 展示・機能の検討 類似施設等の視察研修（富山県） 「富山県〔立山博物館〕」「富山市科学博物館」 「富山市民俗民芸村」
平成 20 年 5 月 26 日	第 4 回委員会 【新宮ユーアイホテル】 管理・運営・施設規模等の検討
平成 20 年 7 月 7 日	第 5 回委員会 【和歌山県民文化会館】 基本構想（素案）の確認 熊野学センター構想シンポジウムの検討 類似施設の視察研修「和歌山県立博物館」
平成 20 年 11 月 15 日	市民の集い 【新宮ユーアイホテル】 『熊野学センター構想 - 市民の集い - みんなでつくる熊野学センター』開催
平成 20 年 11 月 15 日	第 6 回委員会 【新宮ユーアイホテル】 基本構想（案）の確認
平成 20 年 11 月 25 日 ～12 月 9 日	パブリックコメント 基本構想（案）に対して求める（意見者 2 名）
平成 20 年 12 月 19 日	市長報告 【新宮市役所】 基本構想（案）の報告

10 熊野学センター建設検討委員会名簿

(委員)

(五十音順、敬称略)

氏名	役職、専門など
石川 知彦	大阪市立美術館学芸員、仏教美術
奥村 隼郎	熊野歴史研究会会長、郷土史
瀬戸 剛	元大阪市立自然史博物館学芸員、植物学(分類学)
千森 督子	和歌山信愛女子短期大学准教授、民家や居住・住居学
辻本 雄一	新宮市立佐藤春夫記念館長、文学・初期社会主義研究
寺前 俊二	新宮市観光協会事務局長、観光
中島 章和	熊野自然保護連絡協議会会長、植物分類地理学
林 雅彦	明治大学法学部教授、説話文学・絵解き

委員長

副委員長

(オブザーバー)

氏名	役職
竹中 康彦	和歌山県立博物館学芸課長
上野 陽一郎	和歌山県世界遺産センター事務局長

(事務局)

新宮市企画調整課

新宮市教育委員会熊野文化振興室

和歌山県文化国際課

熊野学とは

熊野の持つ個性と魅力の検証

人文・社会・自然科学などの学問分野から、学際的・総合的に研究し体系化して、熊野の独自性と普遍性を解明していく活動

例えば、熊野には・・・

- ・ 山岳霊場、熊野詣の一大霊場としての熊野三山が在立
- ・ 「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録。熊野研究は国際的にも注目
- ・ 日本山岳修験学会、日本宗教民俗学会、日本絵解き研究会など多くの学会・研究会で熊野研究が活発化
- ・ 自然分野においても、熊野の特異な地形、気象に育まれ、固有種や生態系に特徴が見られる
- ・ 地質、植物、動物の研究者が熊野入り。論文を発表

熊野学は、研究のための研究ではなく、地域の独自性を確立し、人々が熊野の地域に誇りと自信を持ち、そこに生きる価値を見出すもの

地方の時代は、いかに地域の特性を把握し発信できるか、地域の「文化力」が大事になっている